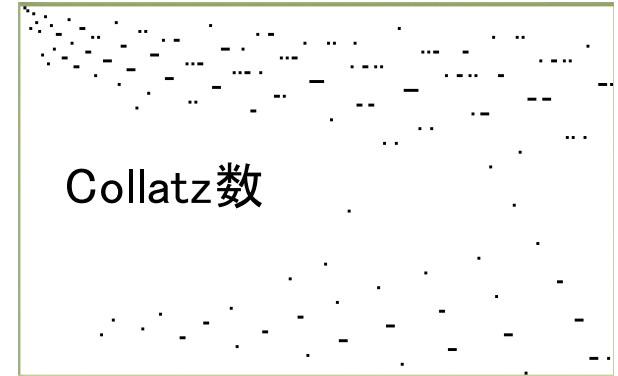
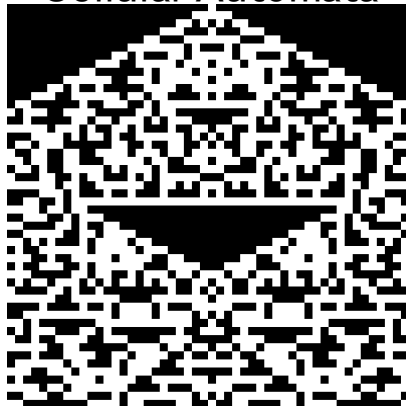


第4章 関数から計算へ

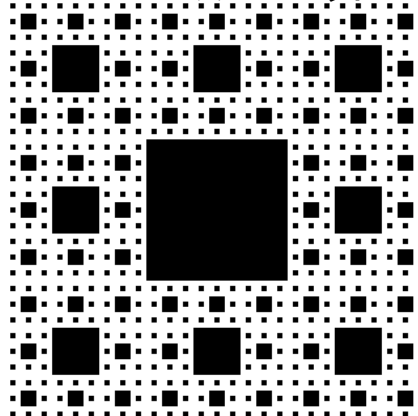
- ・ 再帰による反復計算(補足)
- ・ 繰り返し命令による反復計算
- ・ 配列(3.4)



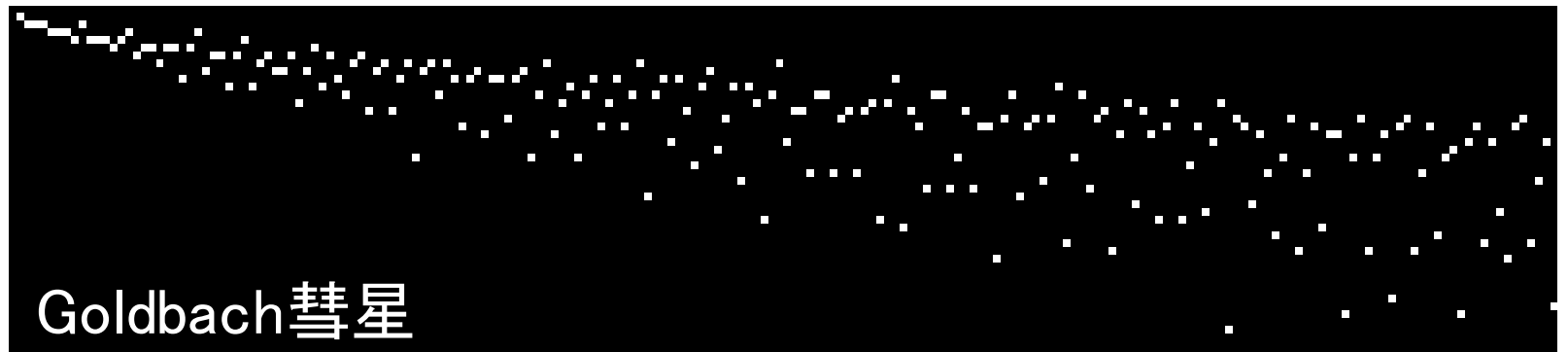
Cellular Automata



Cantorのカーペット



Goldbach彗星



Collatz予想 (p.67)

- ・ 予想: どんな正の整数でも「偶数ならば2で割る, 奇数ならば3倍して1加える」を繰り返せば1になる

pp.37-38の関数tnpo(n)

- ・ 問題: collatz(n) 1になるまでの変化の回数

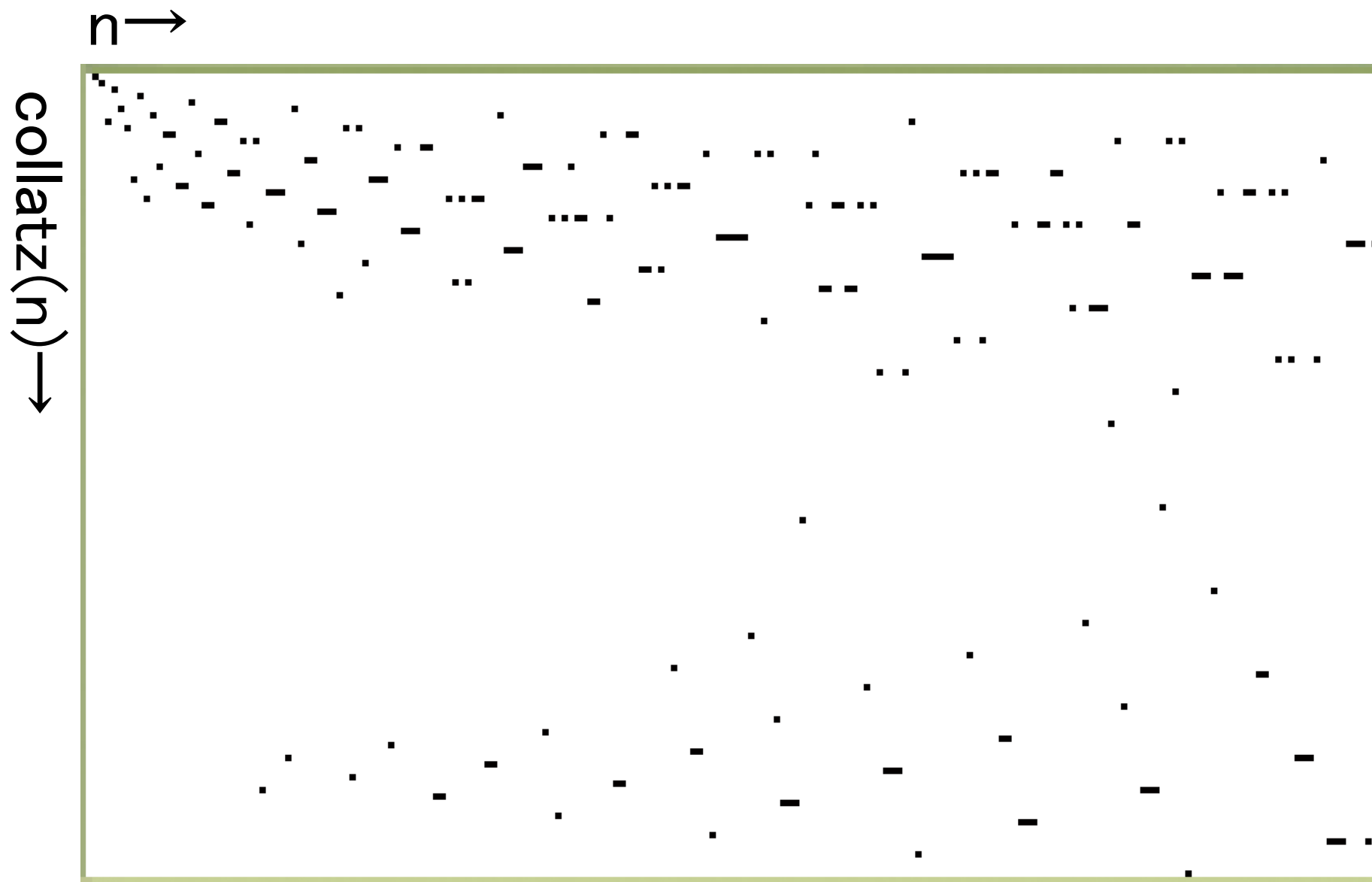
➤ collatz(3)=7, collatz(5)=5, collatz(2)=1

- ・ クイズ: collatz(7)はいくつか? (手計算で)
ターミナルで

```
cd Downloads  
ruby c.rb 回数
```

解答したらcollatz(n)を
collatz(tnpo(n))で表わす式を
考え、さらに関数を定義してみよ

1に達する回数の不思議な振舞



補足: 再帰による反復計算の パターン化

- ・ $f(n)$ が $f(n-1)$ を使って定義できる場合
 - 1から n までの和、積、最大、最小など
- ・ $f(n)$ が $f(g(n))$ で定義できる場合
 - $\text{collatz}(n)$ など
- ・ 補助関数が必要な場合
 - 「約数の個数」など

補足: $f(n)$ が $f(n-1)$ を使って定義できる 場合

- ・ 例: 1から n までの和 $\text{sum}(n)$
 - $\text{sum}(n) = \text{sum}(n-1) + n$
- ・ あとは $n=0$ の場合を考えて

$$\text{sum}(n) = \begin{cases} \text{sum}(n-1) + n & (n > 0) \\ 0 & (n = 0) \end{cases}$$

- ・ Rubyの関数にする→

```
def sum(n)
  if n > 0
    sum(n-1)+n
  else
    0
  end
end
```

補足: $f(n)$ が $f(g(n))$ で定義できる場合

- $tnpo(n) =$ 偶数ならば2で割る,
奇数ならば3倍して1加える
- $collatz(n) =$ 1になるまでの変化の回数

$$collatz(n) = \begin{cases} 0 & (???) \\ 1 + collatz(tnpo(n)) & (\text{otherwise}) \end{cases}$$

補足: 補助関数が必要な再帰関数

- ・ 例: 「 n の約数の個数」 $f(n)$ とする
 - $f(n)$ と $f(n-1)$ の間に関係はなさそう
 - $f(n)$ と $f(n-k)$ であっても関係なさそう
 - 「 n の約数の個数」=「 $1\dots n$ にある n の約数」
=「 $x\dots n$ にある n の約数($x=1$ の場合)」
- ・ 補助関数: 「 x 以上の n の約数の個数」 $g(x,n)$
 - $g(x,n)$ を $g(x+1,n)$ で表わすことができる!
 - $g(x,n)$ が定義できれば $f(n) = g(1,n)$

補足: 補助関数が必要な再帰関数

- ・ 例: 「 n が素数かを判定する関数」 $p(n)$
 - $p(n)$ と $p(n-1)$ の間に関係はなさそう
 - 「 n が素数か」=「 $2 \dots (n-1)$ に n の約数はあるか」
=「 $x \dots (n-1)$ に n の約数はあるか($x=2$ のとき)」
- ・ 補助関数: 「 x 以上の n の約数があるか」
 $q(x, n)$
 - $q(x, n)$ を $q(x+1, n)$ で表わすことができる!
 - $q(x, n)$ が定義できれば $p(n) \stackrel{*}{=} q(2, n)$

少し練習

- ・ 練習4.8cのcollatz(n)を定義せよ
 - ヒント: $f(n)$ が $f(g(n))$ で定義される場合
- ・ 完成したら collatz(学生証番号)を求めその結果を投票せよ
- ・ 時間が余る場合は
 - 課題をやる (CFIVE教材)
 - $\text{max_collatz}(n)$ = 「 n を1まで変化させたときに現われる数の最大値」を定義

ターミナルで
`cd Downloads`
`ruby c.rb` 自分のCollatz数

4.1 繰り返し命令による反復計算 (pp.51-)

1～10までの和を求める

- ・ 箱の中を0にしておき
- ・ $i=1,2,3,4,5,6,7,8,9,10$ について
箱の数をだけ増やす
- ・ 箱の値 = 1～10までの和

4.1 繰り返し命令による反復計算 (pp.51-)

1～10までの和を求める

- ・ 箱の中を0にしておき
- ・ $i=1,2,3,4,5,6,7,8,9,10$ について
箱の数を*i*だけ増やす
- ・ 箱の値 = 1～10までの和

```
def sum_loop(n)
  s = 0
  for i in 1..n
    s = s + i
  end
  s
end
```

条件を満たしている間の繰り返し (p.53)

kの最大の約数を求める

- ・ nをk-1にしておく
- ・ nがkの約数でない間
nを1減らす
- ・ nはkの最大の約数

```
def gd_loop(k)
  n = k-1
  while !divisible(k,n)
    n = n-1
  end
  n
end
```

練習: Collatz予想を繰り返して解く (p.67)

- ・ 「偶数ならば2で割る, 奇数ならば3倍して1加える」
- ・ 問題: collatz_loop(n) 1になるまでの変化の回数
- ・ 求めたい値: 回数(cとする)
- ・ 変化させる値: 現在のn

```
def collatz_loop(n)
  c=0
  while 条件は?
    n = tnp(n)
    c = c + 1
  end
  ここは?
end
```

最初の回数はゼロ

p.37参照
回数を増やす

完成したら:
collatz(n)と
collatz_loop(n)の答が
一致することを確認よ

4.3.1 配列の作成と操作 (pp.60-)

配列とは何か

- ・ データの列(一次元)
- ・ データの表(二次元)
- ・ 三次元、四次元...

```
> make1d(3)
[0, 0, 0]
> make2d(2,3)
[[0, 0, 0],
 [0, 0, 0]]
```

与えられた大きさの 1 次元配列を作る

```
def make1d(n)
  a = Array.new(n)
  for i in 0..(n-1)
    a[i] = 0
  end
  a
end
```

大きさが n で
中身が「空」の
1次元配列を作る

Rubyの式

中身を全て「0」にする

作った配列を返す

(使う側:

`x = make1d(10)`)

2次元配列を作る

```
load("./make1d.rb")

def make2d(h,w)
  a = Array.new(h)
  for i in 0..(h-1)
    a[i] = make1d(w)
  end
  a
end
```

・ 大きさが h で
中身が「空」の
1次元配列を作る
中身を全て
「大きさ w の配列」
にする

注意: 配列のある場所

```
load("./make1d.rb")

def make2d(h,w)
  a = Array.new(h)
  for i in 0..(h-1)
    a[i] = make1d(w)
  end
  a
end
```



```
load("./make1d.rb")

def make2dNG(h,w)
  a = Array.new(h)
  b = make1d(w)
  for i in 0..(h-1)
    a[i] = b
  end
  a
end
```

?

注意: 配列のある場所

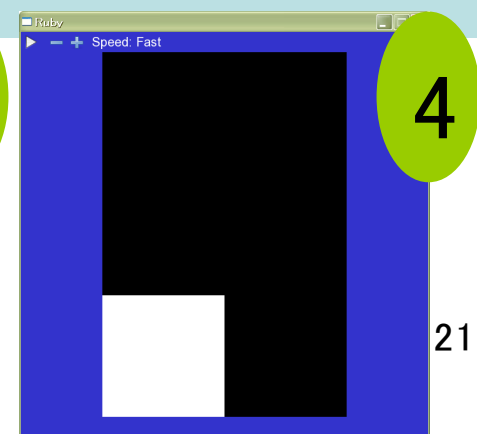
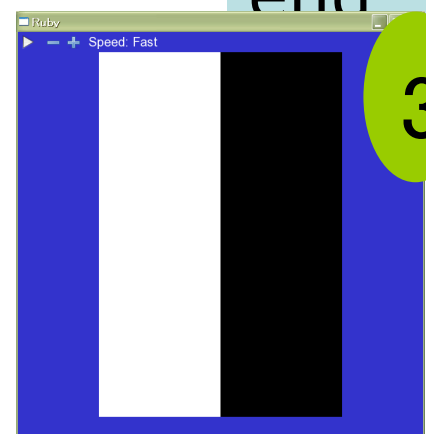
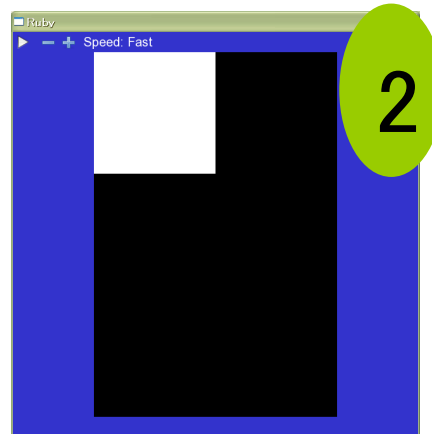
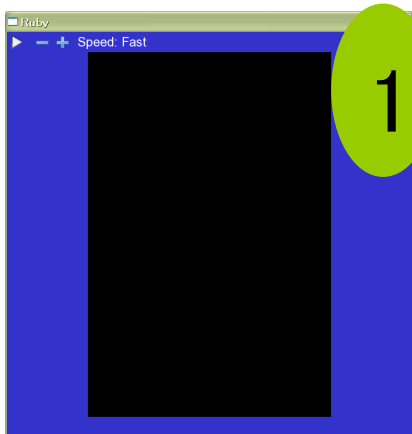
```
> a = make2dNG(3,2)
=> [[0, 0], [0, 0], [0, 0]]
> show(a)
=> nil
> a[0][0]=1
=> 1
> show(a)
```

ターミナルで

cd Downloads
ruby c.rb 番号

```
load("./make1d.rb")

def make2dNG(h,w)
  a = Array.new(h)
  b = make1d(w)
  for i in 0..(h-1)
    a[i] = b
  end
  a
end
```



3.3 文字列 (pp.39-)

```
irb(main):003:0> s = "abra"
```

```
=> "abra"
```

```
irb(main):004:0> t = "cadabra"
```

```
=> "cadabra"
```

```
irb(main):006:0> u = s + t
```

```
=> "abracadabra"
```

```
irb(main):007:0> "123" + "456"
```

```
=> "123456"
```

```
def l(name)  
  load("./"+name+".rb")  
end
```

```
irb(main):001:0> l("max")
```

```
s = "abra"  
t = "cadabra"
```

```
irb(main):009:0> s.length()
```

```
=> 4
```

```
irb(main):010:0> (s + t).length()
```

```
=> 11
```

```
irb(main):012:0> s[0..0]
```

```
=> "a"
```

```
irb(main):013:0> s[1..2]
```

```
=> "br"
```

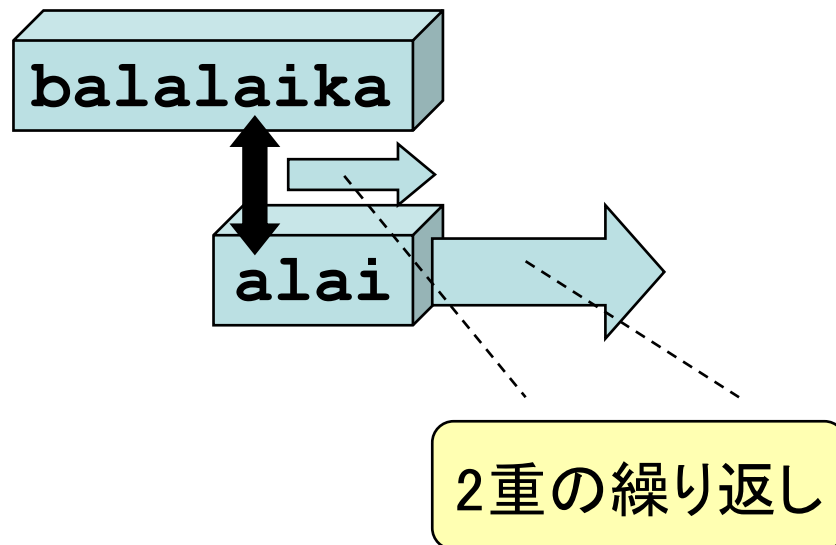
```
irb(main):014:0> t[1..(t.length()-1)]
```

```
=> "adabra"
```

4.3.3 繰り返しの例: 言葉探し (pp.63-)

- 例: 配列sの中で配列pと一致する部分は何番目?

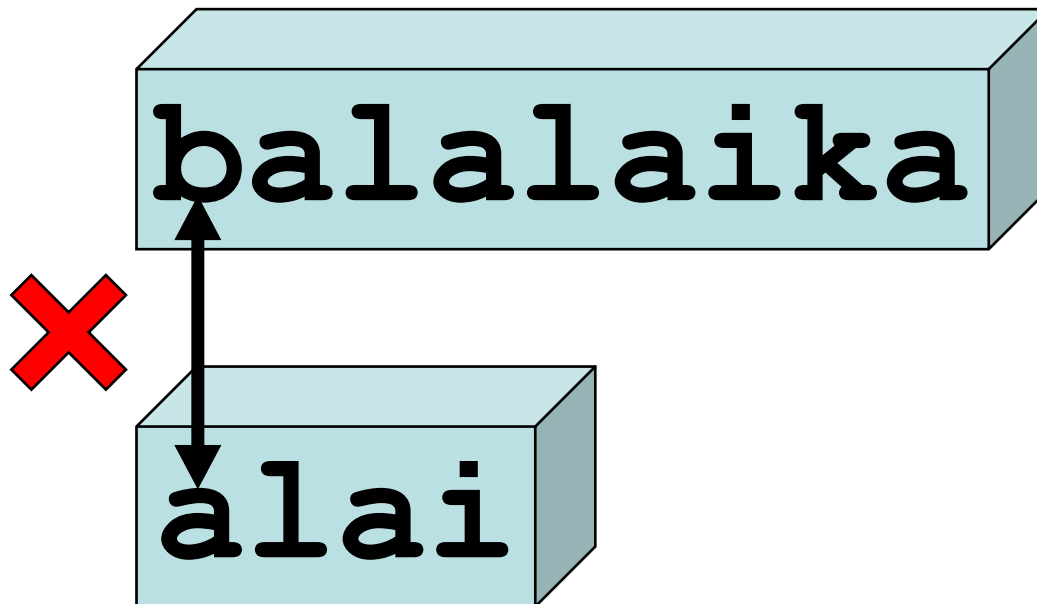
```
match("balalaika", "alai") → 3
```



繰り返しの例: 文字列の検索

- 例: 配列sの中で配列pと一致する部分は何番目?

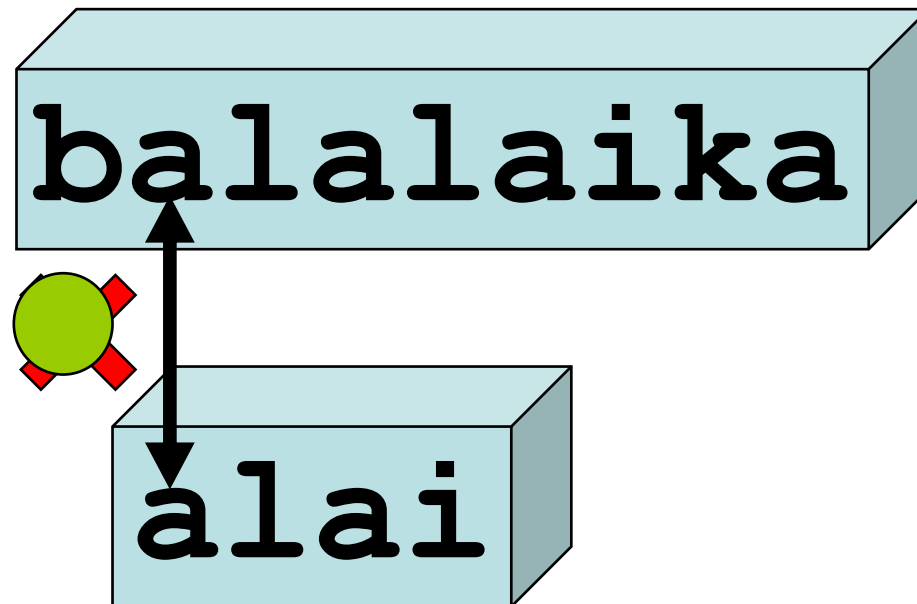
```
match("balalaika", "alai") → 3
```



繰り返しの例: 文字列の検索

- 例: 配列sの中で配列pと一致する部分は何番目?

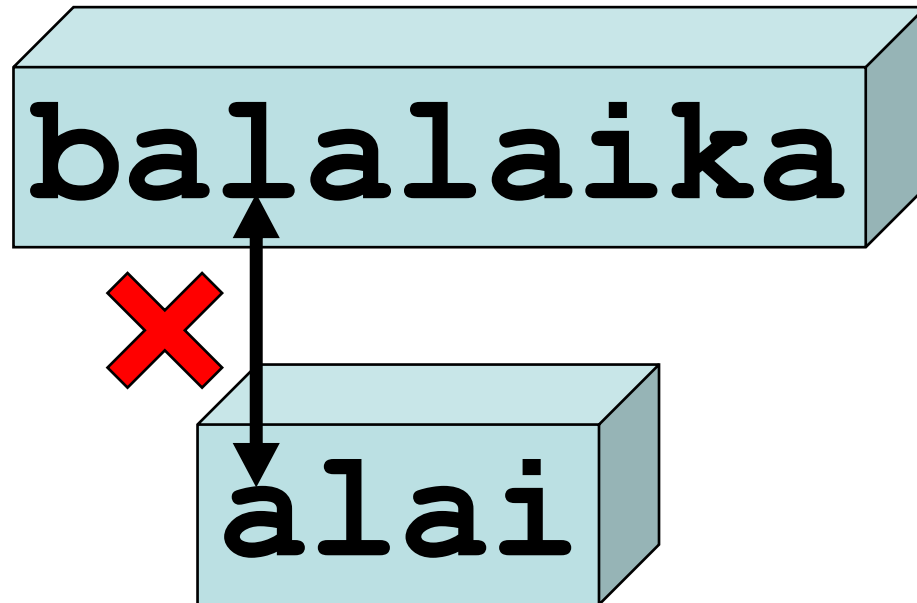
```
match("balalaika", "alai") → 3
```



繰り返しの例: 文字列の検索

- 例: 配列sの中で配列pと一致する部分は何番目?

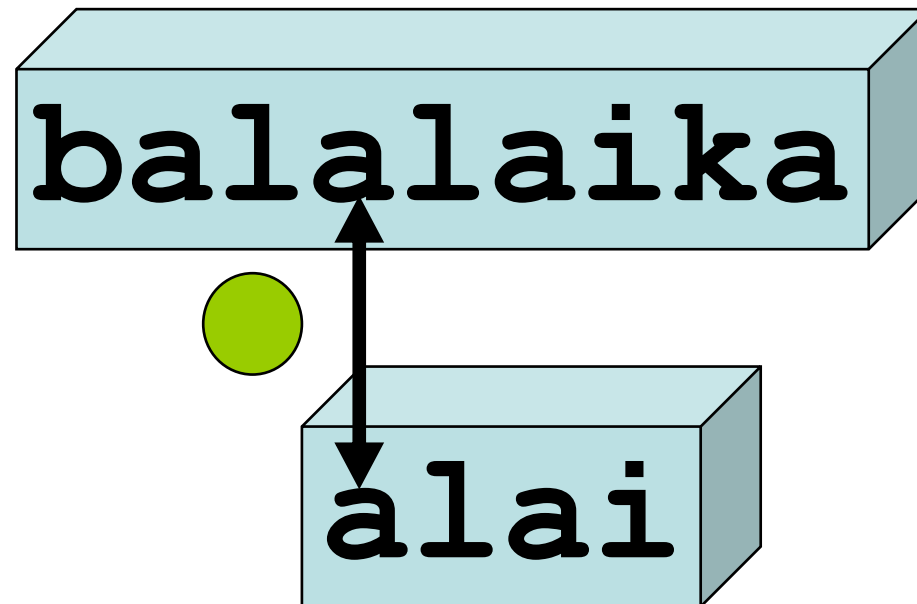
```
match("balalaika", "alai") → 3
```



繰り返しの例: 文字列の検索

- 例: 配列sの中で配列pと一致する部分は何番目?

```
match("balalaika", "alai") → 3
```



繰り返しの例: 文字列の検索

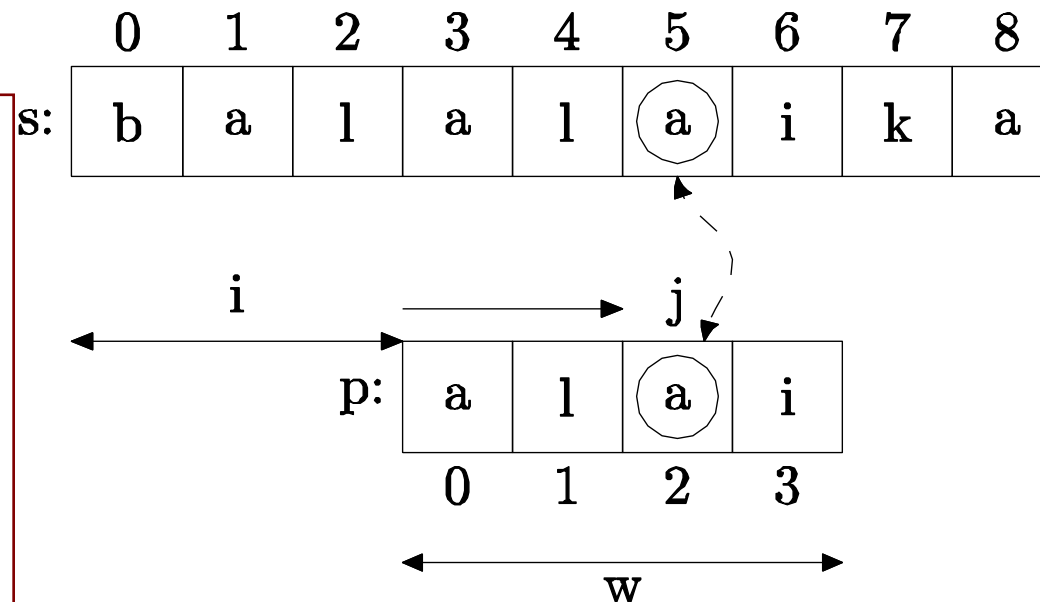
- 例: 配列sの中で配列pと一致する部分は何番目?

sのi番目からとpの一致数

```
def submatch(s,i,p,w)
  j = 0
  while j < w && s[(i+j)..(i+j)] == p[j..j]
    j = j + 1
  end
  j
end
```

```
def match(s,p)
  i = 0
  w = p.length()
  while submatch(s,i,p,w) < w
    i = i + 1
  end
  i
end
```

pはsの何文字目から出現するか?



```
match("balalaika",  
      "alai")
```

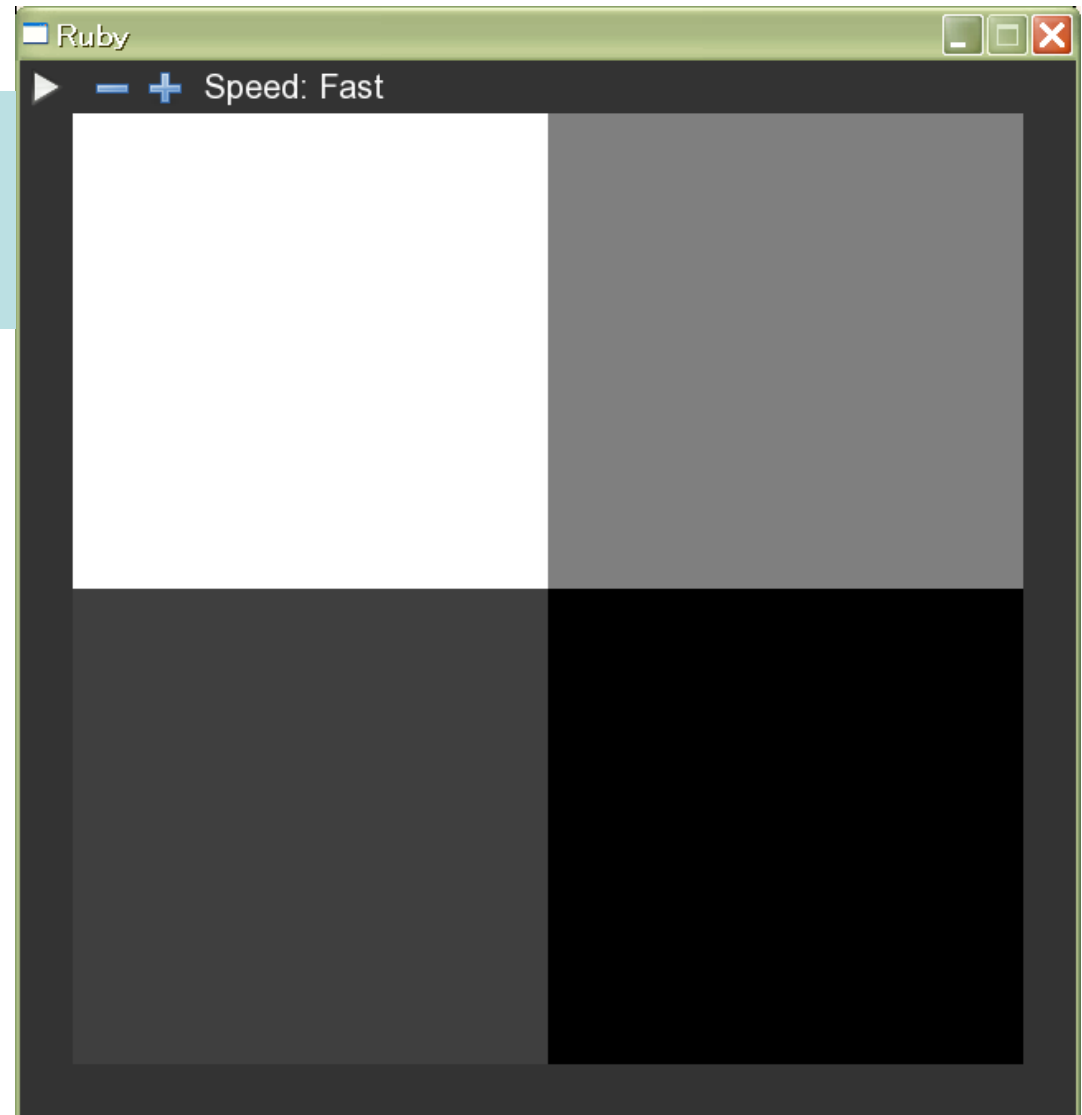

配列の実際

(isrbで)

```
> show([[1,0.5],  
[0.25,0]])
```

とやってみよう

- ・ 画像をクリックしてみよう



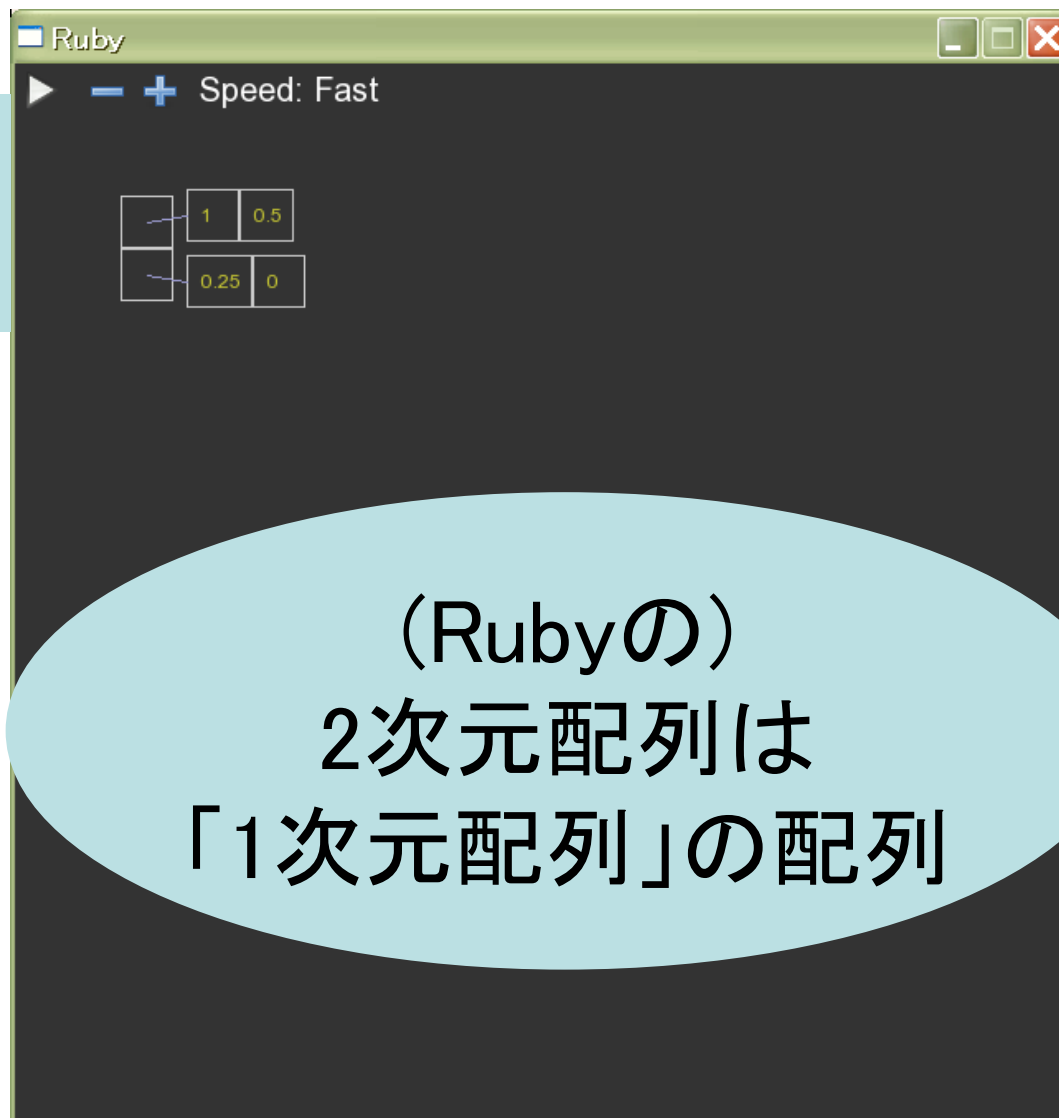
配列の実際

(isrbで)

```
> show([[1,0.5],  
[0.25,0]])
```

とやってみよう

- ・ 画像をクリックしてみよう

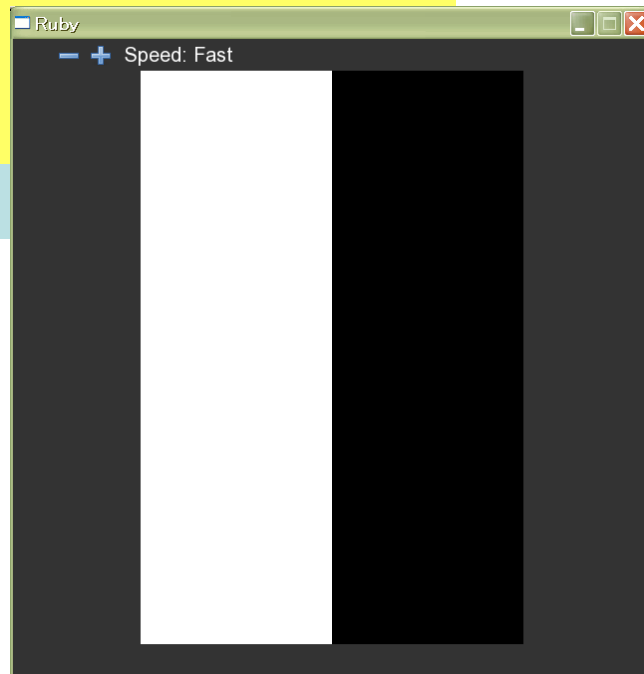


The screenshot shows a Ruby REPL window titled "Ruby" with a "Speed: Fast" indicator. The output of the `show` command is a 2D array represented as a grid of boxes. The first row contains the values 1 and 0.5, and the second row contains 0.25 and 0. The text "(Rubyの) 2次元配列は「1次元配列」の配列" is overlaid on the bottom of the window in a light blue oval.

(Rubyの)
2次元配列は
「1次元配列」の配列

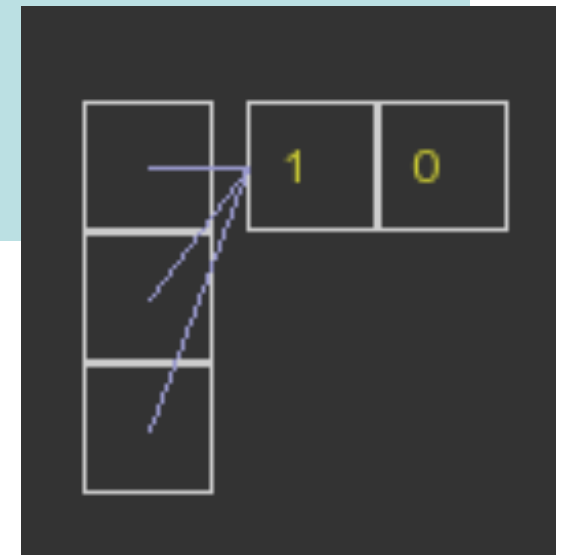
注意: 配列のある場所

```
> a = make2d(3,2)
=> [[0, 0], [0, 0], [0, 0]]
> show(a)
=> nil
> a[0][0]=1
=> 1
> show(a)
=> nil
end
```



```
load("./make1d.rb")
```

```
def make2d(h,w)
  a = Array.new(h)
  b = make1d(w)
  for i in 0..(h-1)
    a[i] = b
  end
  a
end
```

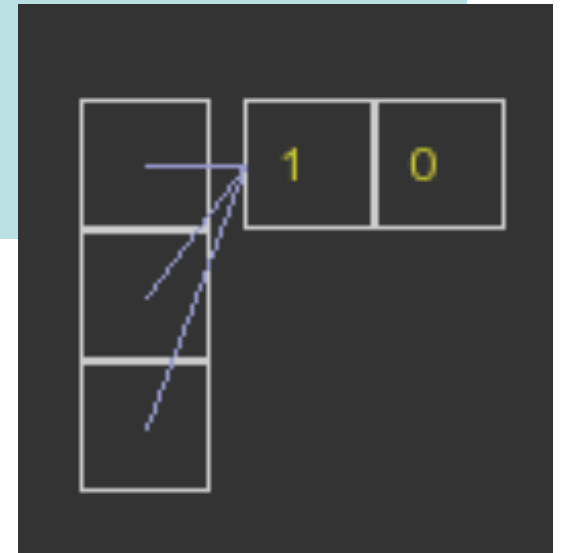


注意: 配列のある場所

```
load("./make1d.rb")  
  
def make2d(h,w)  
  a = Array.new(h)  
  for i in 0..(h-1)  
    a[i] = make1d(w)  
  end  
  a  
end
```



```
load("./make1d.rb")  
  
def make2d(h,w)  
  a = Array.new(h)  
  b = make1d(w)  
  for i in 0..(h-1)  
    a[i] = b  
  end  
  a  
end
```



配列と再帰

- ・ 大きさが $\underbrace{n \times n \times \cdots \times n}_m$ である m 次元配列を作る

- ・ $\text{makeMd}(m,n) = \begin{cases} 1\text{次元配列を作る (}m=1\text{)} \\ (m-1)\text{次元配列を} \\ n\text{個作って並べる (}m>1\text{)} \end{cases}$

```
def make2d(h,w)
  a = Array.new(h)
  for i in 0..(h-1)
    a[i] = make1d(w)
  end
  a
end (参考:2次元配列)
```

配列と再帰

- ・ 大きさが $n \times n \times \cdots \times n$ である m 次元配列を作る
- ・ $\text{makeMd}(m,n) = \begin{cases} 1\text{次元配列を作る} & (m=1) \\ (m-1)\text{次元配列を}n\text{個} \\ \text{作って並べる} & (m>1) \end{cases}$

```
def makeMd(m,n)
  if m==1
    make1d(n)
  else
    a = Array.new(n)
    for i in 0..(n-1)
      a[i] = makeMd(m-1,n)
    end
    a
  end
end
```

```
def make2d(h,w)
  a = Array.new(h)
  for i in 0..(h-1)
    a[i] = make1d(w)
  end
  a
end (参考:2次元配列)
```